



ロック付シリンダ/個別注意事項①

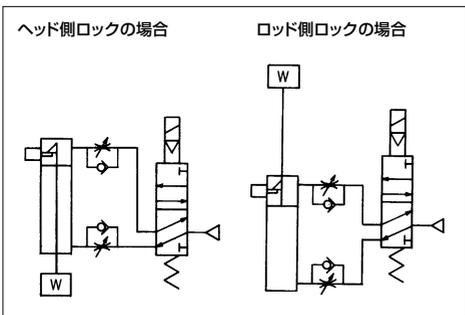
ご使用前に必ずお読みください。

「安全にお使いいただくために」および共通注意事項も併せてご確認ください。

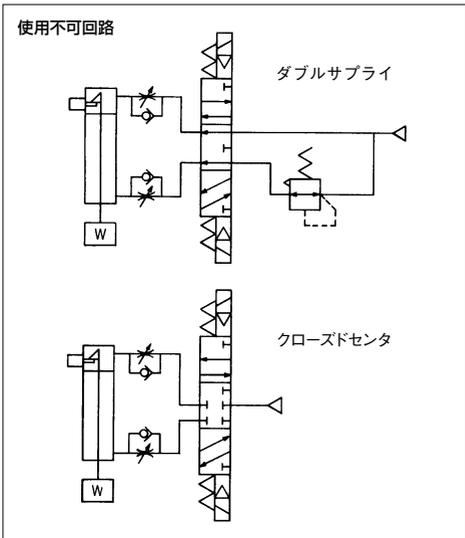
空気圧回路上の注意

警告

- ロック付シリンダの制御は、必ず以下の空気圧回路で行ってください。
- 必ず起動前に、先にロック機構の付いていない側のポートに給気されるような回路にしてください。
- これ以外の空気圧回路ではロック機構が働かなかつたり、暴走などの危険性があります。



- 特に下図のような、3ポジションの電磁弁と組合せた空気圧回路では絶対に制御しないでください。
- ロック機構の付いている側のポートから排気されないとロックしません。



使用圧力について

注意

- 使用圧力は、ロック機構に付いている側のポートには、0.15MPa以上の圧力を供給してください。
- それ以下ですとロックが解除されません。
- (J1〇Lシリーズは0.2MPa以上)

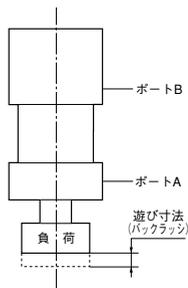
ロック側ストローク端での遊び寸法について

注意

図のようにストロークエンドでロック時に遊びがあるように設計されています。

ポートAより空気圧がぬけた時に遊び寸法分負荷が落下します。

ご注意ください。



(単位: mm)

シリーズ	チューブ内径	ロック時の遊び寸法
J1〇L	φ20、φ25	1以下
	φ32、φ40	1.5以下
K1〇L	φ40~φ100	1以下



ロック付シリンダ/個別注意事項②

ご使用前に必ずお読みください。

『安全にお使いいただくために』および共通注意事項も併せてご確認ください。

ロックの手動解除



警告

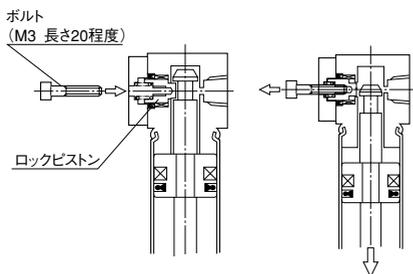
- ロックを手動解除する前に、必ずロック機構の付いていない側のポートに給気してからロックを解除してください。ロック機構の付いていない側のポートが排気状態のままロックを解除しますと、ロック機構に無理な力が加わったり、負荷の自重等によってピストンロッドが急激に動く（落下する）ことがあり危険です。

• 手動ロック解除方法

〈J1OLシリーズ〉

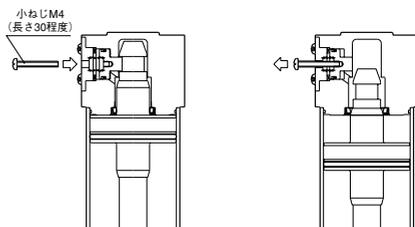
手動でロックを解除するには、手動解除口からM3（長さ20mm程度）のボルトを差し込み、内部のロックピストンにねじこんでボルトを引っ張るとロックを解除できます。

なお、通常の運転時には、ボルトを外しておいてください。

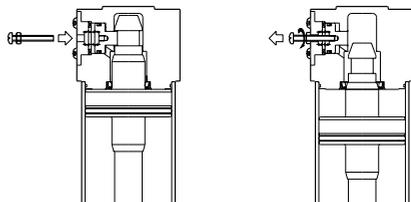


〈K1OLシリーズ〉

手動でロックを解除するには、手動解除口からM4（長さ30mm程度）を差し込み、内部のロック用ピストンにねじ込みボルトを引っ張るとロック解除されます。



解除状態を保持させたい場合は、あらかじめ手動でロックを解除させるボルトにナットを組み付けておけば、ボルトを引っ張った状態でナットをカバー側に締めてボルトが戻らないようにすることができます。



なお、通常の運転時にはボルト・ナットを外しておいてください。

PRNA
PRN
QR/QRO
SH
RPM/SRP
TRP/TRPJ
P1V
HRN
Z3
J1
K1
A1
GDC
P1S
J1HA
K1HA
J1L
K1L
KPTH
X1
P5SM9
Q1
HA
KPT
P5SC9
P5SS9
P5ST9
BMG/BG
P5SA9
L1U
JGBC
M/46B
GPR
GTS
GPCR
GPCL
GPDL
GPFL
GPGL
GPML
HAE/HFE
SAWSASAR
FC
スイッチ